

テレビにおける「農業・農村」表象とその構築プロセス (1)

——NHK『明るい農村（村の記録）』を事例として——

○静岡文化芸術大学 船戸修一
滋賀県立大学 武田俊輔
静岡文化芸術大学 加藤裕治
東京大学 祐成保志

1 目的

本報告の目的は、NHKの農事番組『明るい農村（村の記録）』を事例としてメディア（テレビ）における「農業・農村」表象ならびにその構築プロセスをめぐるポリティクスについての研究意義を説明することである。

これまでメディアで描かれる農業・農村のイメージや表象についての研究としては、教科書における農業・農村像（北口・広田，2000）、「消費的まなざし」について文学作品に表れた家制度（川本，1973）、現代マンガにおける農業・農村表象（一宮，2008）などがあげられる。しかし、テレビ番組における「農業・農村」表象を明らかにした研究はない。

2 方法

かつてNHKでは「農事番組」が放送され、その代表的なテレビ番組として『明るい農村』（1963年4月～1985年3月）は、視聴率15%前後を記録するなど朝の番組として定着していった。そこで、この農事番組が成立した背景や展開経緯を明らかにし、その代表的な番組である『明るい農村』についての研究意義を説明する。

3 結果

『明るい農村（村の記録）』の制作は、各地の農協職員や都道府県の農業改良普及員などによる「農林漁業通信員」がNHK側に情報を提供することによって成り立っていた。こうした両者の関係性のもと、『明るい農村（村の記録）』は、戦後農業の近代化の弊害に翻弄される農村を描き、戦後農政の矛盾を告発する番組として展開していった。

4 結論

『明るい農村』の内容分析によってメディア（テレビ）における「農業・農村」のイメージや表象だけでなく、番組を制作したNHK側と情報を提供した通信員に分析によって、その表象やイメージの構築プロセスをめぐるポリティクスも明らかになる。

文献

一宮真佐子，2008，「ポピュラーカルチャーにおける農業・農村表象とその変化」『村落社会研究ジャーナル』29，pp. 13-24.

川本彰，1973，『近代文学に於ける「家」の構造』社会思想社.

北口まゆ子・広田純一，2000，「小学校社会科教科書における農業・農村の取り上げ方」『農村計画論文集』2，pp. 187-192.

船戸修一・武田俊輔・祐成保志・矢野晋吾・市田知子・山泰幸，2012，「テレビの中の農業・農村」『村落社会研究ジャーナル』37，pp. 37-47.